編集後記・Editorial Notes

魚類学雑誌
42(2): 228-229, 1995

英文誌と和文誌の発行に向けて

42巻1号でお知らせしたように，1996年から英文誌と和文誌を発行することになりました．既に新しい雑誌の表紙デザインもできあがりました．会員のみなさんの活発な投稿をお待ちしています．

英文誌は従来と同様の内容となりますが，和文誌には総説を新たに設けることにしました．また，和文誌には最近の魚類学雑誌では扱っていなかった地方の魚類相や生態学的な一例報告なども掲載することにします．ただし，論文の客観性を保証する必要がありますから，一定の基準を設けることにします．たとえば，魚類相の論文では標本を公的な博物館相当施設に保管することを条件とします．

和文誌では会員に役立つ情報を掲載することにも重点をおきます．図書紹介や会員通信への投稿をお待ちしています．研究集会などの催しの情報もどしどしお知らせ下さい．

原稿を作成するときには，以下に記した事項にご注意下さるようお願いします．

原稿作成上の注意（英文誌・和文誌）

1. 原稿の宛先

日本魚類学会編集委員長：〒169 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部 松浦啓一 電話(03) 5332-7167 ファクス(03) 3364-7104 電子メイル matsuura@kahaku.go.jp

2. 原稿作成方法

(1) 原稿は原則としてパソコンまたはワープロを用いて作成する（手書きまたはタイプライターで作成した原稿も受け付ける）．原稿は3部（正1部と副2部）作成して投稿する．他に1部（複写）を手元に保管する．

(2) 原稿はA4判用紙の片面に横書きで作成し，原稿の上下左右に2-3 cmの余白を設ける．英文はダブルスペースで作成する．和文原稿の行間は校閲者が読みやすく，かつ改訂指示などを書き込めるようゆとりをもたせる（1ページに約30行）．手書きの場合にはA4判原稿用紙に横書きする．

(3) 原稿の最初のページには，以下の項目のみを書く．

英文誌：標題，著者名，所属・住所，および略題．

和文誌：標題，著者名，住所・所属，英文著者名，英文の所属・住所および和文略題．

標題は簡潔に報文の内容を表すものとする．“○○の研究—I,”“…その1,”“…について”といった標題はさける．略題は英文論文では6語以内，和文論文では15文字以内とする．

(4) 英文論文のAbstractは2ページ目から書き，本文はAbstractとは別のページ（ふつうは3ページ目から）に書き始める．和文論文には英文摘要(Abstract)をつけるが，和文本文とは別の用紙に作成する．Abstractは英文論文・和文論文いずれも350語以内とする．摘要中には文献，表，図の引用はしない．

(5) キーワードは英文・和文いずれも3-5語以内とする．

3. 字体の指定

下記に示すもの以外の字体は編集委員に一任する．

(1) 種の学名は原稿ではイタリック体にせず，下線を引いて示す［例：Chaetodon trifascialis (Quoy & Gaimard, 1825)］．

(2) 人名にはローマンを用い，スモールキャピタルは用いない．

4. 学名の著者

標題および英文摘要に出てくる学名には，分類等の論文でとくに必要とする場合以外は，学名の著者名（命名者名）をつけない．また，著者名は，その学名が本文に最初に出てくる所のみにつけ，2回目からはつけない．著者が複数の場合には&で連結し，andやetは用いない（「3. 字体の指定」の例を参照）．分類学関係以外の論文では，著者名を最初からつけなくてよい．

5. 略号など

計量単位はcm, km, g, ml, ccのように小文字だけで記し，ピリオドをつけない．ローマ字綴りはヘボン式を用いる．ただし，著者名その他は慣用に従う．AからBまでという場合，A-Bとする．マイナス符号との混同の恐れがあるときは，A to B（英文）またはAからB（和文）とする．英文で表記する場合，標準体長はSL，全長はTLと略記する．日本の地名は外国人にもわかるよう，その位置を表現し，なるべく緯度経度を入れる．

6. 文献の引用

(1) 本文中の書き方　文献の引用は山田 (1960), Yamada (1960), (山田, 1960; 田中, 1970; Sato, 1981) のようにし, Yamada[1] のような表示法は用いない. 著者が2人の場合は山田・岡 (1980), Yamada and Oka (1979), 3人以上のときは田中ほか (1966), Sato et al. (1955) とする.

(2) 引用文献欄の書き方　次の例に従う.

Bertelsen, E. 1984. Ceratioidei: development and relationships. Pages 325–334 *in* H. G. Moser, W. J. Richards, D. M. Cohen, M. P. Fahay, A. W. Kendall, Jr. and S. L. Richardson, eds. Ontogeny and systematics of fishes. Am. Soc. Ichthyol. Herpetol.Spec. Publ. 1.

Yasuda, F. and Y. Tominaga. 1970. Two new long-tailed pomacanthine fishes from Miyake-jima and Okinawa-jima, Japan. Japan. J. Ichthyol., 17: 141–151.

Randall, J. E., G. R. Allen and R. C. Steene. 1990. The complete diver's & fishermen's guide to fishes of the Great Barrier Reef and Coral Sea. Crawford House Press, Bathurst. xx+507 pp., 7 pls.

松原喜代松・落合　明・岩井　保. 1965. 魚類学 (上). 水産学全集 9. 恒星社厚生閣, 東京. ii+xi+342 pp.

塚本勝巳. 1988. アユの回遊メカニズムと行動特性. 上野輝彌・沖山宗雄 (編), pp. 100–133. 現代の魚類学. 朝倉書店, 東京.

同一著者が単独と他との共著で現れる場合には, 単独の方を先にする. 著者が何人いても山田ほか, Yamada et al. とはせず, 山田太郎・佐藤花子・鈴木次郎, Yamada, T., H. Sato and J. Suzuki のようにする. 同じ著者が続く場合でも著者名を略して—のように表記しない. 同じ雑誌名が続く場合も Ibid. 等で略さず, 全部書く. 日本語の雑誌名は短縮しない (魚雑とは書かず, 魚類学雑誌と書く). 巻 (Vol.) と号 (No.) をもつ雑誌は巻のみを示し, 巻がなく通しの号のみの雑誌はカッコをつけて号を示す. 文献の図版 (plates) 数は分類学関係以外の分野の原稿ではつけなくてもよい. ページ数や図版数は引用した箇所だけではなく, その文献の全ページ・図版数を示す. Japanese の略は Japan. とする. その他, 細部は最近号を参照して体裁の統一に協力する.

7. 表

表は和文誌でも英文で書き, 横線のみを用いて作成する. 表のタイトルは表本体の上に書く. 複数の表を用いる場合には, たとえ表が小さくても, それぞれの表を別々の用紙に書く. 本文には表の挿入箇所を鉛筆で示す. 過大の表については, その印刷実費を著者が負担する.

8. 図

投稿者は良質の図を作成することに留意する. 図は黒インクまたは墨等で描き, 図中の符号や字句はレタリングまたはレーザープリンターで作成する. タイプライター文字の切り張りによって作成した図は印刷に不向きである. 図は縮尺率 50–70% を目安に作成する. 図の大きさは原則として A4 までとする. 図の裏あるいは隅に著者名, 略題, 図の番号, 縮尺の指定を書く. 縮尺は編集段階で変更することがある. 本文には図の挿入箇所を鉛筆で示す. 図の説明は和文誌でも英文とし, 本文とは別の用紙にまとめて書く. 刷り上がりの図の大きさは横 15 cm, 縦 20 cm を限度とする. 片段の場合には, 刷り上がりの最大幅は 7 cm とする. 過大の図については, 著者がその印刷実費を負担する.

9. 脚註・業績番号など

脚註は使用しない. 業績番号, 研究費の出所等は謝辞や序文末尾に記す.　(KM)

訂　正・Erratum

魚類学雑誌
42(2): 229, 1995

魚類学雑誌第 42 巻 1 号に下記の訂正があります.

Japanese Journal of Ichthyology, 42(1), on front cover, "Tshibangu, K. K. and I. Kinoshita: Early life history..." should read "Early life histories..."